

評価結果公表票

作成日 平成21年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0272400870
法人名	有限会社 田中運送
事業所名	グループホームたなか
所在地	青森県北津軽郡鶴田町鶴田字小泉304-1 (電話)0173-23-1321
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月14日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤	人, 常勤換算 5.6人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 30,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4)利用者の概要(平成21年1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鶴田町立病院 今岡医院 なかじま歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は毎日ホームに顔を出し、管理者や職員と良好なコミュニケーションを築くよう努めている。また、ホームは1ユニットで、隅々まで目が届くよう配慮している。また、地域との交流を図りながら、一人ひとりが自分らしい生活を継続できるように、全職員が一丸となって支援している。

運営者は職員の質の確保や向上の必要性を理解しており、勤務体制等に配慮し、各職員が外部研修に参加できるよう調整している。研修参加後は復命書を作成し、職員会議で報告することで全職員に周知し、共有している。また、社会福祉協議会や行政と連携し、職員の業務に関する助言等を行っている。

職員は利用者と一緒に洗濯物を畳んだり、作品作りをするなどして、喜怒哀楽を共にしている。また、朝の新聞のうけ取りや、新聞紙折りなど、利用者の能力に応じて行ってもらい、支え合う関係を築いている。

嗜好調査を実施し、食事の好みを把握している。現在、利用者の状況や意思に応じて準備や片づけを促しており、職員も一緒に行っている。職員は利用者と同じ席に着き、さりげなく食べこぼし等に配慮したり、見守りや食事介助を行い、会話を交えながら楽しい食事となるよう支援している。

【特に改善が求められる点】

外部評価結果のほかに、自己評価についても市町村に対し報告することに期待したい。また、毎月発行している広報誌も配布してはどうか。

成年後見制度についても職員が概ね理解できるように、外部研修や内部研修を実施してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を基に、定期的な避難訓練を実施しているほか、災害時に備え食料や防災用品を準備するなど、職員全員で改善内容を検討し、ケアサービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議などで評価のねらいや活用方法を周知し、職員は日々のケアのあり方の確認と、事業所の資質向上につながることを理解している。</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、協議した上で作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月毎に、メンバーが参加しやすい夕方の時間に開催しており、積極的に参加を得ている。</p> <p>会議では、事業計画や運営状況のほか、職員の育成や利用者の安全対策などについて話し合っているほか、自己評価や外部評価結果を議題にし、改善策について意見を受けている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時に声がけをしたり、ホーム内に意見箱を設置し、家族等が意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>また、事業所内の苦情受け付け窓口を重要事項説明書に記載しているほか、外部苦情受付窓口も明示し、家族便りで定期的に周知している。出された意見や要望は、日々のケアサービスに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から地域の方に、声掛けを行ったり、地域の高齢者の方にホーム行事への参加を働きかけるなどし、地域住民と交流を図っている。</p> <p>また、地域の方から認知症に関する相談やホーム見学、ボランティア等を受け入れ、認知症の予防や普及活動を行っている。</p> <p>外部の方を受け入れる際は利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、事業所独自の理念を掲げ、日常の運営やケアにあたっている。また、理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっており、ホーム内に掲示したり、職員会議や申し送り時に周知を図っている。職員は理念の意味を理解し、地域との関わり合いの大切さを理解し、日々のケアに反映させている。</p> <p>運営者は同業者との交流の必要性を認識し、西北五、県、全国のグループホーム協議会に加入し、交流の機会の確保に努めている。包括支援センター運営会議に参加し、得られた情報を日々のケアに活かすように努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用前から、ホームの見学を行い、ホームの雰囲気を感じてもらい、本人や家族と十分話し合い、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。</p> <p>職員は利用者と一緒に洗濯物を畳んだり、作品作りをするなどして、喜怒哀楽を共にしている。また、朝の新聞のうけ取りや、新聞紙折りなど、利用者の能力に応じて行ってもらう、支え合う関係を築いている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者の意向を十分に聞き入れ、ケア会議において全職員の意見や気づきを基に利用者本位の計画を作成している。必要に応じて、家族や医療機関等から情報収集を行い、計画に反映させている。</p> <p>入居前からの医療機関および受診状況を把握し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、定期的な受診のほか、体調変化や心配事があるときは、24時間体制で相談に応じてくれる協力医療機関を設けているほか、訪問看護の協力も得ている。かかりつけ医と情報交換をしており、その内容を家族と共有している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動をせかすことなく利用者の立場にたったケアに努めている。ホームの一日の流れはあるが、利用者の希望や身体状況等にに応じて、利用者のペースに合わせた支援を行っている。</p> <p>天気のよい日は、ウッドデッキで日光浴を楽しむなど、毎日出来るだけ外出の機会を設けている。また、外出先は利用者の希望により柔軟に対応しており、移動方法等は身体状況に合わせた支援を行っている。</p> <p>入居前から愛用していたものなどが持ち込まれ、馴染みの生活ができるように支援している。また、利用者や家族の意向を取り入れ、一人ひとりにあった居室作りを支援している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、事業所独自の理念を掲げ、日常の運営やケアにあたっている。また、理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念をホーム内に掲示するとともに、毎月の職員会議や、申し送り時に確認し、周知を図っている。職員は理念の意味を理解し、地域との関わり合いの大切さを理解し、日々のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日頃から地域の方に、声掛けを行ったり、地域の高齢者の方にホーム行事への参加を働きかけるなどし、地域住民と交流を図っている。また、地域の方から認知症に関する相談やホーム見学、ボランティア等を受け入れ、認知症の予防や普及活動を行っている。外部の方を受け入れる際は利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議などで評価のねらいや活用方法を周知し、職員は日々のケアのあり方の確認と、事業所の資質向上につながることを理解している。職員全員が自己評価に取り組み、協議した上で作成している。また、職員全員が、評価結果を基に改善内容の検討を行い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に、メンバーが参加しやすい夕方の時間に開催しており、積極的に参加を得ている。会議では、事業計画や運営状況のほか、職員の育成や利用者の安全対策などについて話し合っているほか、自己評価や外部評価結果を議題にし、改善策について意見を受けている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、運営上の問題点などについて相談を行い、連携を図っている。また、パンフレットを配布し、外部評価の結果を報告することで、ホームの実態を理解してもらうよう働きかけているが、自己評価を報告するまでには至っていない。	○	外部評価結果のほかに、自己評価についても市町村に対し報告する事に期待したい。また、毎月発行している広報誌も配布してはどうか。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業の利用者がいることから、事業の内容について概ね理解しており、利用相談等の際は、社協に相談し、情報提供を行うなどの支援に努めている。しかし、研修等を通じて成年後見制度について、理解を深める取り組みを行うまでには至っていない。	○	成年後見制度についても職員が概ね理解できるように、外部研修や内部研修を実施してはどうか。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合いの機会を設けており、管理者は常に職員や利用者の行動を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、虐待防止マニュアルを基に内部研修を行い、虐待を発見した場合の報告の流れ等を全職員が理解できるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程や重要事項説明を基に、利用者や家族等に十分な説明を行い、疑問や不安を引き出すよう声かけをするなどして理解を得るよう努めている。また、契約改定の際も、十分説明し、納得を得ているほか、退去の際も十分説明を行い、納得を得た上で同意を得ている。退去先との連絡調整も行い支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族便りを発行し、健康状態や受診状況、職員の異動等について報告しているほか、面会時等にもその都度報告を行っている。金銭管理は個人用の金銭出納帳を作成し、毎月領収書を添えて報告し、面会時に確認を得ている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声かけをしたり、ホーム内に意見箱を設置し、家族等が意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、事業所内の苦情受け付け窓口を重要事項説明書に記載しているほか、外部苦情受付窓口も明示し、家族便りで定期的に周知している。出された意見や要望は、日々のケアサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の交代による利用者への影響を理解しており、日常の関わりあいを観察し、職員と利用者の相性を判断するなどの配慮を行っている。また、異動や配置換えの際は、利用者や家族に十分説明し、詳細な引き継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の確保や向上の必要性を理解しており、勤務体制等に配慮し、各職員が外部研修に参加できるよう調整している。研修参加後は復命書を作成し、職員会議で報告することで全職員に周知し、共有している。また、社会福祉協議会や行政と連携し、職員の業務に関する助言等を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流の必要性を認識し、特に町内の事業者との交流の機会を持つ方針を示しており、西北五、県、全国のグループホーム協議会に加入し、交流の機会の確保に努めている。包括支援センター運営会議に参加し、得られた情報を日々のケアに活かすように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前から、ホームの見学を行い、ホームの雰囲気を感じてもらうほか、本人や家族と十分話し合い、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者と家族双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に洗濯物を畳んだり、作品作りをするなどして、喜怒哀楽を共にしている。また、朝の新聞の受け取りや、新聞紙折りなど、利用者の能力に応じて行ってもらい、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々のケアで接する中で、利用者の希望や意向の把握に努めているほか、意向の把握が困難な場合は、日々の行動や言動の観察を基に、全職員で意向の把握に取り組んでいる。また、必要に応じて家族から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向を十分に聞き入れ、ケア会議において全職員の意見や気づきを基に利用者本位の計画を作成している。必要に応じて、家族や医療機関等から情報収集を行い、計画に反映させている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、実施期間を定め明示しており、3ヶ月毎に見直しを行っているほか、利用者の身体状況等に変化が生じた場合は、その都度計画を見直している。また、日々のコミュニケーションの中で状態に変化がないか観察と把握を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出、買い物等利用者および家族の希望に柔軟に対応しており、今後は、家族や地域を交えた遠足等の実現を計画している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関および受診状況を把握し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、定期的な受診のほか、体調変化や心配事があるときは、24時間体制で相談に応じてくれる協力医療機関を設けているほか、訪問看護の協力も得ている。かかりつけ医と情報交換をしており、その内容を家族と共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応を明確にしており、病状の急変時の対応について、早い段階から家族や医療機関と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの意向を十分聞くようにし、言動等を否定していない。入浴は利用者の希望により同性介助を行っているほか、排泄時にも羞恥心等に配慮している。また、年長者と接する上で、常識的な呼びかけ等を行っており、プライバシーに十分配慮したケアを実践している。職員は個人情報保護法について概ね理解し、記録等は事務室や宿直室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく利用者の立場にたったケアに努めている。ホームの一日の流れはあるが、利用者の希望や身体状況等に応じて、利用者のペースに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、食事の好みを把握している。現在、利用者の状況や意思に応じて準備や片づけを促しており、職員も一緒に行っている。職員は利用者と同じテーブルに着き、さりげなく食べこぼし等に配慮したり、見守りや食事介助を行い、会話を交えながら楽しい食事となるよう支援している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた入浴日はあるが、利用者の希望により柔軟に対応している。また、お湯の温度や入浴時間など一人ひとりの好みを把握している。入浴時は必ず職員が介助を行っているほか、入浴を拒否する方に対して、家族等から助言を得たり、声掛けを工夫するなどしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の状態観察により、利用者の希望や力量を把握しており、新聞を受け取る役割や、洗濯物量み、新聞折り、菊の花むしりなど、一人ひとりの力量に応じて行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ウッドデッキで日光浴を楽しむなど、毎日出来るだけ外出の機会を設けている。また、外出先は利用者の希望に合わせ柔軟に対応しており、移動方法等は身体状況に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により身体拘束について理解しており、職員会議で周知している。現在1名の利用者については、家族の同意を得た上で、ベットからの転落防止のため、安静時はサークルを使用している。また、身体拘束に関する取り決め書を作成しており、理由や期間、経過を記録する体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関への施錠はしていないほか、日常出入りする場所も施錠していない。外出傾向のある利用者は常に見守りや声掛けを行っている。やむを得ず施錠を行う場合の理由等を契約時に説明しており、同意を得ているほか、無断外出時に備え、近隣に協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、地域の警察や消防署の協力を得て避難訓練を行っている。また、災害時に備え、消防や警察等の関係機関から協力が得られる体制が整っているほか、食料や防寒具、ポータブルトイレ等を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員が作成し、外部の栄養士から助言や指導を得ている。一日1400～1500カロリーを目安に栄養バランスに配慮したものとなり、摂取量を毎日記録している。また、水分は一日1リットルを目安にし必要時記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、全職員に配布しているほか、保健所等より情報収集に努め、必要に応じて見直しを行っている。また、職員会議を利用し感染症についての学習を行っている。家族便りを通じて、感染症流行の状況や予防対策、面会時の消毒などについて周知に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品や家具などは家庭的な雰囲気のものを使用しており、壁には季節を感じられるような、職員の手作りの作品が飾られている。職員の立てる音やテレビの音量は適切で、部屋の明るさはカーテンで調節できている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用していたものなどが持ち込まれ、馴染みの生活ができるように支援している。また、利用者や家族の意向を取り入れ、一人ひとりにあった居室作りを支援している。		

※ は、重点項目。